

奈良県立五條高等学校 平成 28 年度 学校運営協議会 全日制部会（第 1 回）

1 日 時 平成 28 年 9 月 24 日（土）10 時～12 時

2 場 所 奈良県立五條高等学校 小会議室、

3 参加者 （委員）伊野 力平、田中 寿、石井 光洋、米田 修三、山本 肇一（校長）
（事務局）新田泰三（全日制教頭）、廣田清雄（全日制教頭）、堀口隆志（事務長）、
吉川浩良（全日制教務部長）

4 内 容

(1) 校長あいさつ

(2) 2016 オープンキャンパス「全体会」（本校の学科・コース、入試制度、国際教育について等）

(3) 2016 オープンキャンパス「体験授業」（数学、理科、英語、商業の体験授業参観）

(4) 協議

・（質問・意見）

オーストラリアの姉妹校であるガートングラマースクールへの海外研修の説明があったが、日程を長くできないか。一週間では短いのではないか。

・（回答）

経費の問題が大きい。こちらでのホームステイ等はボランティアをお願いしている。日数を増やせない現状もある。

・（質問・意見）

ロータリークラブでも交換留学をやっていた。受け入れについて長期になると大変であるが、とてもよい経験である。

・（回答）

参加した生徒にとっては、とても良い経験になっている。グローバルな世界を体験できていると思う。海外研修に参加した生徒は、留学の受け入れをしていただける場合が多いが、留学生の送迎、休日の観光等、ご家庭にかかる負担は大きい。

・（質問・意見）

子どもが在学中に海外研修に参加させてもらい、よい経験をさせてもらった。英語に対する抵抗感も減ったと思う。おらかな国民性も感じ取ることができたようだ。

昔はこのような制度がなかった。外国を見ること、家を離れて生活することは貴重な経験だと思う。他校ではこのような取組をやっているか。

・（回答）

国際関係の学科をもつ高等学校では、このようなプログラムがあるが、その他は個人での参加となっている。

・（質問・意見）

地域の住民は高校生のボランティアを期待している。高齢化、過疎化などにより、清掃や祭りなど高校生の手伝いがほしい。高校生のグループが地域の核となり、取り組むことで、将来いずれは地域に戻ってきてくれると思う。

・（回答）

御霊神社の天平行列には 3 年前から協力している。来年は 1300 年祭であり、引き続き協力する。

コミュニティスクールの取組は本校にとっては大きな力となる。地域との絆を深め、最終的には地域から支えられ、学校が存在すること、五條高校に行きたいという子どもたちを育てることをねらいにしている。

・（質問・意見）

地域の人にとってうれしいことである。

・（回答）

他校では地域の子どもたちが在籍していない場合が多く、難しいところがある。本校は地域との関わりが深い上に、五條市内の生徒が 41% を占め、ほかの高等学校にはないだろう。ぜひ、今後も維持していきたい。

学校が地域に対してできないことを、声をかけてつないでいただきたい。本日は地元小学校 3 校の運動会の補助に参加している。小学校では、非常に喜んでいただき、頼りにしてもらっている。

また、参加した生徒を小学生の前で紹介していただいている。自ら進んで母校の小学校の手伝いに参加してくれている。このつながりを深めていきたい。

・(質問・意見)

そのような取組を通して、積極的に物事を考えてくれればよい。そして、五條高校の存在感を示すことができればと思う。

(5) その他

・今後の予定について

全日制部会（第2回） 12月までに開催予定

第2回学校運営協議会 3月までに開催予定

